

記入日 2018年 1月 14日

1. 概要

実践団体名	愛知県立海翔高等学校		
連絡先	0567-52-3061		
プランタイトル	ステップアップ 海拔0m地帯の街で防災を考える －愛知県立海翔高等学校の取組（環境防災コースを中心とした）－		
プランの対象者※1	小学生、中学生、高校生 教職員・保育士等、 地域住民、社会人・一般 防災関係者、全ての人々	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- 1 本校をとりまく地理的な特性（濃尾平野下流域の海拔0m地帯）を踏まえ、水害等の想定される災害について、地域との連携を図りながら理解を深める。
- 2 防災啓発教材等の開発を通して、地域の防災リーダーとして活躍できる資質を育てる。

【プランの概要】

【校内学習】

- ① 聴講授業の開催（弥富市民・保護者を対象に、本校で開催する防災に係わる授業に招待し、生徒とともに協議を行いながら地域について考える。）
- ② 防災に関する啓発教材開発（防災すごろく制作）
- ③ 防災教育週間の設定（教科横断的に防災の視点を踏まえた授業の実施）

【校外学習】

- ① 見学会の実施（名古屋市港防災センター）

【地域交流の実施】

- ① 小学校の避難訓練への協力（近隣の小学校の児童を本校校舎4階へ誘導協力・生徒によるミニ防災講座）
- ② 防災訓練への参加（海部地方総合防災訓練におけるボランティアセンター設置訓練でのボランティア役での協力）
- ③ 文化祭の一般公開（災害対応車展示、避難救助袋の設置と利用体験、ハソリを使った豚汁炊き出し、災害備蓄食料の無料配布、あいち防災リーダー会の出展）
- ④ 地域の文化祭への出展
- ⑤ フェスタへの参加（夢さがしフェスタで防災ソングの紹介）
- ⑥ アイリンブループロジェクトへの協力
- ⑦ 小学校への出前授業（防災かるた伝達講習等）
- ⑧ 防災ボランティアコーディネーター養成講座の受講

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 1 環境防災コースで学ぶ生徒の知識の取得や経験の蓄積とリーダー性の涵養
- 2 出前講座や聴講授業、水害を想定した避難訓練等の実施による地域ぐるみの防災意識の高揚

2. プランの年間活動記録 (2017 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	校内学習 ○年間の防災学習の計画立案	・聴講授業の内容選定と講師依頼	
5 月	地域交流の実施 ○小学校の避難訓練への協力	・弥富市立十四山西部小学校避難訓練誘導とミニ講座のリハーサルを行う	5/25 弥富市立十四山西部小学校避難訓練誘導とミニ講座を実施する
6 月	地域交流の実施 ○海部地方総合防災訓練への参加 校内学習 ○弥富市出前講座	・弥富市による海部地方総合防災訓練についての事前学習	6/4 海部地方総合防災訓練のボランティアセンター設置におけるボランティア役として参加する 6/15 弥富市の地理的な特性と災害時の対応について学ぶ
7 月	校内学習 ○避難救助袋の設置法と使用体験講座	・計画、打合せ	7/6 海部南部消防署の協力による避難救助袋の設置法と使用体験講座を受ける
8 月	地域交流 ○児童と防災かるたで遊ぶ 校外学習 ○見学会	・計画、打合せ	8/23 児童館での防災かるたの読み手をする 8/24 名古屋市港防災センターを見学する
9 月	地域交流の実施 ○文化祭の一般公開 校内学習 ○課題レポート報告会 校内学習 ○第 1 回聴講授業	・計画、打合せ ・計画、打合せ	9/8 災害時対応車両展示・豚汁炊き出し提供・災害備蓄食料の無料配布・あいち防災リーダー会の出展・避難救助袋の使用体験を実施する 9/14 夏季休業中に起こった「台風・水害」災害についての課題レポート報告会を実施する 9/21 弥富市の災害跡地を住民とともにバスで巡る
10 月	校内学習 ○第 2 回聴講授業 ○土木学会出前講座 地域交流の実施 ○十四山地区文化の集い	・計画、打合せ	10/19 防災かるたの作り方と遊び方を学習する 10/26 「液化化しそうな地盤」を学習する 10/29 環境防災コースの取組を紹介する
11 月	校内学習 ○第 3 回聴講授業	・計画、立案、打合せ	11/9 非常時の障害者支援と手話を学習する
12 月	地域交流の実施 ○第 4 回聴講授業	・計画、立案、打合せ、会場準備	12/14 認知症サポーター養成講座で避難所等での認知症の方や家族の支援の仕方を学習する
1 月	校内学習 ○課題レポート報告会 地域交流の実施 ○小学校への出前授業	・計画、立案、打合せ、授業準備	1/19 国内外における赤十字の災害救援活動の実際 1/12 弥富市立十四山西部小学校
2 月	校内学習 ○第 5 回聴講授業 地域交流の実施 ○小学校への出前授業 ○防災ボランティアコーディネーター養成講座への参加	・計画、立案、打合せ	2/8 土木学会の講座「橋のふしぎ」を受講する 2/22 弥富市立十四山東部小学校への出前授業を実施する(本校 1 年生) 2/22 弥富市立栄南小学校への出前授業を実施する(本校 2 年生) 2/24 本校 1、2 年生(計 29 名)が受講する
3 月	校内学習 ○防災教育週間の設定	・計画、立案、授業準備	3/5~3/9 教科横断的に防災の視点を踏まえた授業を実施する

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 8】※3

タイトル	校内学習
実施月日（曜日）	①聴講授業 ①9/21（木） ②10/19（木） ③11/9（木） ④12/14（木） ⑤2/8（木） ②啓発教材開発 通年 ③防災教育週間 平成30年3月5日（月）～9日（金）
実施場所	海翔高等学校
担当者または講師	①聴講授業 ①担当者・講師等の区分：講師 氏 名：星屋 政敏 所属・役職等：弥富市役所 総務部危機管理課 防災対策相談員 ②担当者・講師等の区分：講師 氏 名：青木和雄 所属・役職等：あいち防災リーダー会 ③担当者・講師等の区分：講師 氏 名：照井 宏美 他手話通訳者2名 所属・役職等：弥富市社会福祉協議会 ④担当者・講師等の区分：講師 氏 名：末藤 和正 所属・役職等：愛知県厚生農業共同組合連合会 海南病院 地域包括支援センター長 ⑤担当者・講師等の区分：講師 氏 名：永田 和寿 所属・役職等：名古屋工業大学大学院 准教授 ②防災啓発教材 担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：清水 哲 所属・役職等：愛知県立海翔高等学校 教諭 ③防災教育週間 担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：清水 哲 他全教員 所属・役職等：愛知県立海翔高等学校 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	① 環境防災コース 1年生 科目「環境防災基礎」2単位 2年生 科目「地域と防災Ⅰ」2単位 (50分×2時間×5回) ② 環境防災コース 3年生 科目「課題研究」 2単位 (50分×85回) ③ 各教科担当 (50分)
プログラムのカテゴリ、形式※4	2. 講習会・学習会・ワークショップ 13. 体験学習



活動目的 ^{※5}	3. 災害に強い地域をつくる 6. 防災に関する知識を深める 7. 技術を身につける 8. 防災意識を高める 9. 災害対応能力の育成 10. その他（防災に関する啓発教材の開発）
達成目標	①本校をとりまく地理的な特性（濃尾平野下流域海拔0m地帯）や水害等の想定される災害について、地域との連携を図りながら理解を深める。 ②災害時に自分や周囲の人々の身を守るためには、どのような活動をすればいいのかを考えることにより、防災意識を高め、災害対応能力を涵養する。 ③防災に関する知識や対策を啓発するための防災すごろくを開発する。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<p>1 聴講授業</p> <p>①9/21（木）「災害史跡巡検」（弥富市危機管理課） <弥富の災害史跡から過去・現在・未来の防災を見つめよう！> 1. ガイダンス 2. まとめ・発表</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>②10/19（木）「防災かるたで遊みましょう」 （あいち防災リーダー会 青木和雄） 1. 高浜市の小中高生が作成した防災かるたについて 2. かるたで遊んでみよう！ 3. 阪神淡路大震災の被災体験談</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>③11/9（木）「非常時の障害者支援と手話」 （弥富市社会福祉協議会及び手話通訳者2名） 1. 講話 2. グループワーク（手話を学ぶ）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>④12/14（木）「認知症サポーター養成講座」 （海南病院 地域包括支援センター センター長 末藤和正） <認知症の人と家族への応援者であるサポーターになり、災害時にも支援しましょう！></p>

1. 講話
2. 認知症の方への関わり方ロールプレイング



⑤2/8 (木)「土木学会出前授業 橋のふしぎ」
(名古屋工業大学大学院 准教授 永田 和寿)

1. 講話
2. 実験
3. まとめ・発表

②啓発教材の制作

① 4月～5月

1. 制作・研究テーマ「防災すごろく」に決定
2. 制作物概要の構想
 - ・ 防災の知識が身につくクイズや、防災グッズの知識が身につくイベントを盛り込んだすごろくを作る
 - ・ 本校の高校生を対象とする

② 6月～7月

1. 試作品「火災編」の制作
2. 試作品の試行と修正



③ 9月～11月

1. 「地震・津波編」「豪雨・水害編」の制作
2. 両編を統合し、同じものを2セット制作することに変更
3. すごろくボード、ルールブック、イベント／アイテム／クイズカード、アイテムグッズ、コマ、サイコロなどの作成

④ 12月～2月

1. 試行と修正
2. 他クラスの生徒による体験

	<p>3. 校内発表会のための資料作成 4. 発表会で下級生にプレイしてもらうための準備・練習 5. 校内発表会</p>  <p>③防災教育週間 3/13 (月)～3/17 (金) を防災教育週間に設定し、教科横断的に全ての教員が防災の視点を踏まえた授業を実施する。</p>
<p>準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等</p>	<p>①聴講授業 ①9/21 (木) 35名乗りマイクロバス、デジカメ、地図、ワークシート、バインダー、広報用チラシ2000枚、防チャレ旗 ②10/19 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、名札、防災かるた、デジカメ、広報用チラシ枚2000枚、防チャレ旗 ③11/9 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、名札、ワークシート、模造紙、デジカメ、広報用チラシ2000枚、防チャレ旗 ④12/14 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、名札、ワークシート、模造紙、デジカメ、長机、椅子、広報用チラシ2000枚、防チャレ旗 ⑤2/8 (木) PC、プロジェクター、スクリーン、名札、ワークシート、模造紙、橋の実験用模型、広報用チラシ2000枚、防チャレ旗 ②啓発教材の制作 PC、プロジェクター、スクリーン、画用紙、模造紙、ラミネーター、ラミネートフィルム、デジカメ、プリンター ③防災教育週間 各教科担当準備、使用物品</p>
<p>参加人数</p>	<p>①聴講授業 環境防災コース (1年生17名、2年生12名) 地域住民20～30名 教職員10名 関係団体担当者2～5名 ②啓発教材開発 環境防災コース (3年生6名) ③防災教育週間 全校生徒 約300名、教職員約50名</p>

経費の総額・内訳概要	各種消耗品 約 50,000 円
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>①本校をとりまく地理的な特性や水害等の想定される災害について、地域の方と共に防災への理解を深めることができた。</p> <p>②異年齢層の方との交流で、多様な立場で防災を考えることができ、思考の幅を広げることができた。</p> <p>③聴講授業における1、2年生合同授業の形態で2年生はリーダー性を養うことができ、1年生は来年度の果たすべき役割を自覚できた。</p> <p>④教材開発の試行錯誤が探求と研究の心を育てることにつながった。また、啓発に必要な教材の作り方を学び、将来の防災リーダーで生かせる技術を学習できた。</p> <p>【課題】</p> <p>①聴講授業における新しい学習内容の発掘が必要である。</p> <p>②広報活動を充実させ、聴講授業の参加者が限られたメンバーに偏る傾向を防ぐための方策を考える必要がある。</p> <p>③開発した教材が、効果的に活用されるような機会を設けていく必要がある。</p>
成果物	「防災すごろく」

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	校外学習
実施月日（曜日）	①見学会の実施 ①8/24（水）名古屋市港防災センター
実施場所	関係団体開催場所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：防災センター 担当職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	6時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	9. 校外学習・移動教室 13. 体験学習
活動目的※5	1. 遊び・楽しみながらの防災 5. 災害を疑似体験 6. 防災に関する知識を深める 7. 技術を身につける 8. 防災意識を高める 10. その他（環境と防災の関わりを考察する）
達成目標	①防災に関する体験的な活動を通して、防災への視野を広げるとともに、これまで学習した内容の理解を深める。 ②防災関連施設の果たす役割と、そこで働く人々の職業人としての姿勢を学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①見学会の実施 ①8/24（水）名古屋市港防災センター 1. 体験講座（サバイバル炊飯、煙避体験、3D伊勢湾台風体験、水消火器体験、起震車体験） 2. 講話   
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材：関係団体担当者 ・道具、材料等：関係団体に一任
参加人数	①見学会の実施 環境防災コース 1年生17名、教職員2名
経費の総額・内訳概要	交通費等各生徒負担
成果と課題	【成果】 ①体験的な活動を通して、防災への視野が広がり、これまで学習した内容について理解を深めることができた。 ②社会資源を活用することで、多様な学習方法で防災を学ぶことができた。 【課題】 ①時間的・空間的に限られた社会資源しか活用できていないので、今後、時間的・空間的な制限をどうするかが課題である。 ②交通費等の生徒負担の軽減を考慮する必要がある。



成果物

- ※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
- ※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
- ※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	地域交流の実施
実施月日（曜日）	<p>①小学校の避難訓練への協力 5/25（木）</p> <p>②防災訓練への参加（海部地方総合防災訓練）6/4（日）</p> <p>③文化祭の一般公開 9/7（木）</p> <p>④地域の文化祭への出展 10/29（日）</p> <p>⑤フェスタへの参加 11/18（土）</p> <p>⑥アイリンプループロジェクトへの協力 1/11（木）</p> <p>⑦小学校への出前授業 1/18（木）・2/22（木）</p> <p>⑧防災ボランティアコーディネーター養成講座の受講 2/24（土）</p>
実施場所	<p>① ③ ⑥ ⑧ 海翔高等学校</p> <p>② 木曾川グランド ④ 十四山スポーツセンター</p> <p>⑤ 津島市のショッピングセンター</p> <p>⑦ ①弥富市立十四山西部小学校 ②弥富市立十四山東部小学校 ③弥富市立栄南小学校</p>
担当者または講師	<p>担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：関係小学校教諭 弥富市役所 総務部危機管理課 弥富市社会福祉協議会 NPO法人愛知県西部防災ボランティアネットワークの会</p>
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係団体開催時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	<p>1. イベント・行事</p> <p>2. 講習会・学習会・ワークショップ</p> <p>8. その他学校内での時間 11. 出前授業</p> <p>13. 体験学習 16. 避難・防災訓練</p>
活動目的※5	<p>1. 遊び・楽しみながらの防災 3. 災害に強い地域をつくる</p> <p>4. 災害を想定した訓練 5. 災害を疑似体験</p> <p>6. 防災に関する知識を深める 7. 技術を身につける</p> <p>8. 防災意識を高める 9. 災害対応能力の育成</p>
達成目標	<p>①共助の大切さを共有するため、地域との連携に積極的に関わる姿勢を身につけていく。</p> <p>②地域での具体的な防災活動の方法などを学び、将来の防災リーダーとしての自覚を高めていく。</p> <p>③学習したことを地域の住民へと広げる活動で、共に防災の意識を高めていく。</p>

実践方法・進め方
(箇条書き
またはフロー)

① 小学校の避難訓練への協力 5/25 (木)

津波等の避難場所に指定されている本校校舎4階への誘導と、環境防災コース生徒によるミニ防災講座を開催する。



② 防災訓練への参加 6/4 (日)

海部地方総合防災訓練におけるボランティアセンター設置運営訓練で、ボランティア役として参加する。



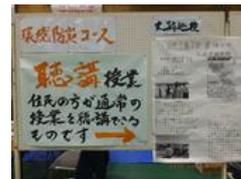
③ 文化祭の一般公開 9/7 (木)

学校祭を一般に開放し、災害対応車両の展示やPTAによる豚汁炊き出し、災害備蓄食料の無料配布を実施する。



④ 地域の文化祭への出展 10/29 (日)

「十四山地区文化の集い」で環境防災コースの取組を紹介する。



⑤ フェスタへの協力 11/18 (土)

「夢さがしフェスタ」で環境防災コース生と福祉科1年生が防災ソングを披露する。



	<p>⑥アイリンプループロジェクトへの協力 1/11 (木) フランス菊の植樹を行う。</p>  <p>⑦小学校への出前授業 環境防災コース 1・2年生が防災ソングの紹介や防災かるたで小学生とともに防災を学ぶ。</p> <p>①1/18 (木) 弥富市立十四山西部小学校 ②2/22 (木) 弥富市立十四山東部小学校 ③2/22 (木) 弥富市栄南小学校</p>  <p>(写真は昨年度のもの)</p> <p>⑧防災ボランティアコーディネーター養成講座 2/24 (土) 災害時にボランティアの受け入れなどを調整するスタッフとしての役割や技術を学習する。</p>  <p>(写真は 28 年度、本校で実施したときのもの)</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材 関係団体担当者 ・道具、材料等 ① 名古屋大学こころの減災教育プログラム ② 関係団体に一任 ③ 避難救助袋、排水ポンプ車、水陸両用車、照明車、ウニモグ等 ④ パネル、壁新聞 ⑤ 防災ソング CD ⑥ フランス菊、培養土 ⑦ PC、プロジェクター、スクリーン、防災かるた ⑧ 関係団体に一任
<p>参加人数</p>	<p>① 小学校の避難訓練への協力 環境防災コース 1年生 17名、教職員 6名 弥富市立西部小学校児童 120名</p>

	<p>②防災訓練への参加（海部地方総合防災訓練） 環境防災コース2年生12名、教職員3名、関係機関1000名</p> <p>③文化祭の一般公開 生徒・地域住民・PTAを含め約800名</p> <p>④地域の文化祭への出展 10/29（日） 生徒5名、教員2名、地域住民1000名</p> <p>⑤フェスタへの参加 11/18（土） 生徒30名、教員2名、関係団体300名</p> <p>⑥アイリンプループロジェクトへの協力 1/11（木） 生徒12名、教員6名</p> <p>⑦小学校への出前授業 1/18（木）・2/22（木） 環境防災コース1年生17名、2年生12名、教員5名、小学生120名</p> <p>⑧防災ボランティアコーディネーター養成講座の受講 環境防災コース1年生17名 2年生12名</p>
経費の総額・内訳概要	各種消耗品 約50,000円
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>①学習した内容を活用し、地域の小・中学生を含む住民への防災意識の啓発を行うことができた。</p> <p>②地域住民との関わりが、共助力を最大限に発揮する上で大切であること理解できた。</p> <p>③社会の中の具体的な防災団体や防災活動の方法を知ることができた。また防災活動を行う諸団体との交流が生徒の防災意識を高める契機となった。</p> <p>【課題】</p> <p>①教師主導の受け身的な学習態度から、自ら学習していく生徒を育成していく必要がある。</p> <p>②内容が重複しないように多様な学びができる校外学習とする必要がある。</p>
成果物	防災ボランティアコーディネーター養成講座修了証

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】 ○昨年度に続く応募でプランの内容をどのようにステップアップさせるかの点。</p> <p>【工夫した点】 ○外部講師を利用するときは、公報などから無料で実施してくれるものを選び、年度の予算に左右させずに来年度も継続して学習できるようにしたこと。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】 ○準備を担当できる教員が時間割の関係で限られていたこと。 ○聴講授業の日程変更などによって、当初予定していた広報活動の期間が短くなり効果的な広報を行えないことが生じたこと。</p> <p>【工夫した点】 ○前年度のチャレンジプランでつながった人々に聴講授業や出前授業などで協力していただき、より円滑な学習ができたこと。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】 ○防災ソングを手話化するプランの実現化に必要な講師をみつけることができなかったこと。 ○行事がイベントになりがちで、通常時の授業に気持ちの切り替えのできない生徒が出ていたこと。 ○プラン担当者の割り振りが曖昧となり、担当者の負担に偏りが生じたこと。</p> <p>【工夫した点】 ○行事の前後に事前・事後学習を実施することにより、一過性のイベントになることを防いだこと。 ○聴講授業で学習したことは、模造紙にまとめ校内掲示で啓発を行ったこと。また、小学校への出前授業で生かすようにしたこと。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	弥富市立十四山西部小学校 弥富市立十四山東部小学校 弥富市立栄南小学校	避難訓練・出前授業受け入れ 出前授業受け入れ 出前授業受け入れ
保護者・ PTAの組織	愛知県立海翔高等学校PTA	豚汁炊き出し・聴講授業参加・防災デイキャンプへの参加
地域組織	あいち防災リーダー会 海部ブロック	文化祭への出展・聴講授業への参加
国・地方公共団体・ 公共施設	弥富市役所 総務部危機管理課 弥富市社会福祉協議会 海部南部消防組合 国土交通省 木曾川河川事務所 愛知県警	聴講授業講師 総合防災訓練事前講習講師 防災ボランティア養成講座担当・聴講授業講師 出前授業講師・文化祭への車両提供 文化祭への車両提供 文化祭への車両提供
企業・ 産業関連の組合等	愛知県厚生農業協同連合会 海南病院 一般社団法人 愛知県LPガス協会	聴講授業講師 文化祭への炊き出し燃料の協力
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO法人愛知県西部防災ボランティアネットワークの会 レスキューストックヤード	防災ボランティア養成講座講師 出前講座講師
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な活動を通して、防災への視野が広がり、これまで学習した内容について理解を深めることができた。 ○社会資源を活用することで、多様な学習方法で防災を学ぶことができた。 ○学習した内容を活用し、地域の小・中学生を含む住民への防災意識啓発を行うことができた。 ○地域住民との関わりが、共助力を最大限に発揮する上で大切であること理解できた。 ○社会の中の具体的な防災団体や防災活動の方法があることを知ることができた。また防災活動を行う諸団体との交流が生徒の防災意識を高める契機となった。 ○プランの中で出会う人々との交流が、生徒にとって将来の進路への選択肢を広げることに繋がった。 ○防災すごろくの開発を通して、教材の作り方を学習することができ、将来防災リーダーとして活動するときに生かせる経験となった。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○プランの一部が計画倒れとなり、昨年度のプランをステップアップさせたとは言い難い結果となった。 ○聴講授業の段取りが遅くなり2学期以降に実施したため、実施日と実施日の準備期間に余裕がなく、広報がうまくいかないことが生じた。 ○プランに生徒発案の企画を取り入れ、生徒自らが責任をもたせて物事を遂行していく力を育成していく必要がある。 ○企画への参加者が、限られたメンバーに偏らないように広報活動を充実させるなどの方策を考える必要がある。 ○開発した防災すごろくを活用し、計画的かつ効果的な啓発方法を考える必要がある。 ○プランと通常時の授業との系統性を図った授業計画を考えていく必要がある。 ○頂いた資料を整理し、通常時の授業で活用できるようにする。 ○プラン担当者の割り振りが曖昧となり、担当者の負担に偏りが生じた。
<p>今後の 継続予定</p>	<p>防災教育チャレンジプランで実施した聴講授業や啓発教材作りは今後も継続していきたい。</p> <p>今回は紹介していないが、海翔生制作の防災かるたと防災カレンダーを現在制作中である。</p> <p>防災ソングの手話化については、今回のプランで実現できていないが、大学の手話サークルとの連携を図りながら実現していきたいと考えている。</p> <p>これからも、環境防災コースの活動を中心に、あらゆる教育活動に防災教育の視点を取り入れ、今後も学校全体の取組として防災教育を継続していきたい。さらには、本校の取組を発信していき、本県全体の高等学校で防災教育推進の機運が高まるよう努めていきたい。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

【防災教育の実践で得られた知見】

防災教育は、命と関わる教育であり、助け合いの精神を学ぶことのできる教育である。多様な災害場面や危機に直面したときの問題を解決する能力や判断力などの「生きる力」を培うことのできる教育であり、人と人とのつながりの大切さや助け合いに必要な「公共の精神」を養うことのできる教育であると感じる。

防災教育には、先に述べた「生きる力」や人間としての在り方・生き方を模索する要素が多く含まれていると感じている。

これは、年間70時間に及ぶ環境防災コースの生徒との関りを通して感じたことである。いろいろな人の立場に立って、物事を考えることのできる防災教育は人権教育にも通ずるところがあると言える。

誰かのために役立つことを行うことは、この世に生まれた自分の存在を肯定的にとらえることのできる体験につながる。こうした経験が社会に対しての責任を生み、積極的かつ建設的に社会を築いていく有為な人材を育てると感じている。

学校教育における防災教育は、多くの児童生徒への「生きる力」育む機会であるがゆえに、その果たす役割は大きいと感じている。

【防災教育の普及にかかわる提案】

・学校教育における防災教育の普及には、教員が法的な研修制度で、ある程度の防災分野の研修を受けるといいのではないかなと思う。

例えば、初任者研修の中で数時間研修を受け、教科の特性を生かした研究授業を行うようにすれば、誰もが防災教育の経験者であるため、学校全体での防災教育を推進しやすいと思える。また、初任者を研修するために、各指導担当者は防災学習をしなければならない。学校全体で防災教育を考えていくきっかけとなるのではないかなと思う。

また、防災教育を経験することで防災教育を得意分野とする教員が今後育つかもしいかなと考える。

以上

(自由記述: 1/3)

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)